



大鳥中学校便り

第11号

横浜市立大鳥中学校

校長 新谷 隆司

卒業おめでとうございませす

校長 新谷 隆司

寒さ厳しい冬が過ぎ去り、再びの柔らかな春がやってきました。三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。新型コロナ感染症に翻弄された二年間でしたが、強くたくましく生きたみなさんの姿はとても輝いていました。できなかったことが数多くあり、工夫を凝らしながらの日々でしたが、この時間は、みなさんのこれからの人生の糧となることでしょう。今日は、人生の一つの段階を終え、新しい世界への一步を踏み出す日です。自分を支えてくれた、たくさんの人々への感謝も忘れないでください。

保護者の皆様、お子様の大鳥中学校ご卒業おめでとうございます。大切なお子様を三年間お預かりいたしました。全教職員三年間精一杯頑張ってきましたが、力不足で保護者や地域の皆様には至らぬことがたくさんあったと思います。お子様の今日の輝く笑顔は大人への第一歩を歩み始めた証です。これもひとえに皆様のご支援、ご協力おかげです。心より感謝いたします。ありがとうございました。

※卒業証書授与式の卒業生別れの言葉を紹介いたします。

卒業生別れの言葉

柔らかな日差しが感じられる春。寒さが厳しかった冬を越え、早咲きの桜が彩りを添える季節となりました。

思い起こせば三年前。心をときめかせて迎えた入学式。上級生の背中を追った日々も、今では遠い日の思い出です。

そして、今日、私たちは新たな希望を胸に抱き、この場所から旅立とうとしています。

始めて袖を通した標準服。教科ごとに先生が変わる授業。学年の壁を越えた部活動。未知なる環境への期待でいっぱいだった一年生。上級生の存在を圧倒的に感じながらも、好きなことに夢中になって取り組み、充実した毎を送りました。

新たな仲間との絆を深めた三ツ沢への校外学習。自然に囲まれながらチームでカレー作りに没頭しました。汗を流したあと食べたあの味は、今でも鮮明に覚えています。

中学生として迎えた二度目の春。先輩と呼ばれるようになりました。

しかし、私たちは突如、新型コロナウイルス感染症という目に見えない何かに脅かされました。

行けなかった自然教室。そして職業体験。授業を受け、友達と楽しく話し、部活動をする。そんな日常さえも、奪われました。

最高学年となった三度目の春。全ての物事に「最後」という言葉がつくようになりました。この言葉に寂しさを感じながらも自分の将来と向き合う大切な一年間となりました。

大鳥中学校でも特に大きな行事である、体育大会と文化祭。

体育大会では、クラスで分かれ白熱した競技が繰り広げられました。初夏の空に轟いた歓声。クラス対抗の全員リレーでは、どのクラスも全員が全力で走り、より強い団結力が生まれました。

今できる最高のイベントを行った文化祭。クラスで団結し、美しい音色を響かせた合唱も二年生からできなくなりました。しかし、新たなイベントとしてクイズ大会や舞台ステージが催され、全校生徒が一丸となりステージを大成功させることができました。私たちは今できることを精一杯することができました。

修学旅行も卒業遠足も行けなかった私たち。新型コロナウイルス感染症は私たちの様々な思い出を奪いました。私たちは数限りない悲しみ、無力感を決して忘れません。しかし限りなき未来の担い手として、力の一つに明るい世界を築く強い志を持っています。一瞬の時を大切に、一步ずつ確実に歩いていこうと心に決めました。しかし、許されるのなら、コロナ禍の前に戻りたい。そしてもう一度、この二年間をやり直したい。そんな思いがよぎります。

まもなく中学校生活に終わりを迎える私たち。この三年間を振り返ってみると一つ一つが大切な時間でした。楽しかったこと、嬉しかったことは心の中に思い出となり、悲しかったこと、つらかったことは、私たちの記憶として残されています。「一瞬一瞬を大切に。」当たり前によく使われる言葉ですが、今一番心に染みる言葉です。

そして、かけがえのない友達との出会い。嬉しい時も、悲しい時もそばにいた友達。意見が対立し、たくさん喧嘩もしたけれど、耐えきれない涙を見せるのも、あふれる愛情を向けるのもすべて友達でした。今日は、大切な友達に別れを告げなくてははいけません。共に過ごしてきた仲間たち。三年間ありがとう。

今はここにいない、在校生の皆さん。私たちは今日ここから旅立ちます。明日からは、みなさんの手でこの大鳥中学校を支え、よりよい大鳥中学校を創り上げていってください。そして、一生に残る思い出を作ってください。

私たちの良き理解者であった先生方との出会い。長い間本当にありがとうございました。どんなに迷惑をかけても見捨てずに真剣に向き合ってくれたこと。感謝以外の言葉が見つかりません。

お父さん、お母さん。私たちは義務教育を終え、それぞれの道へと歩き出します。心揺れ動く時期にあり、怒りの矛先を向けてしまったこと、わがままを言い困らせたこともありました。どんな時でも厳しくしかり、強く励まし、やさしく包んでくれてありがとうございました。

この出発をきっかけに大人への階段を少しずつ上っていきます。これから先、迷惑をかけることもあると思いますが、その時はまた私たちを支えてください。

あっという間に過ぎてしまった三年間。ついこの間入学したのではないかと感じるほど、鮮明に残っている思い出。真っ白だったキャンパスが時計の針と共に色鮮やかに染まりました。その一つ一つが私たちの知識となり、また、これからの生きる糧になっていくのです。

私たちは、すべての思い出を涙と共にしまい、笑顔でこの大鳥中学校を去っていきます。

激動の世の中、世界は刻々と変化を遂げていきます。二十一世紀を生きる私たちは、この変化に柔軟に対応していかなければなりません。この三年間を人生の糧として、自分自身で心豊かに道を切り開いていきます。

私たち卒業生百五名は未来への希望と共に力強く羽ばたいていくことを誓い門出の言葉といたします。

令和四年三月九日

卒業生代表 山方 颯